

防衛大臣 田中直紀 様
防衛省事務次官 金澤博範 様

【要請書】

南スーダンへの自衛隊派兵を直ちに中止せよ

私たちは、貴職らがすすめている国連南スーダンミッション（UNMISS）・南スーダン平和維持部隊（PKO）への自衛隊派遣を直ちに中止することを求めます。

貴職らは「国際社会の要請に答え」、道路や橋の建設といったインフラ整備に自衛隊が従事すると宣伝しています。しかし、インフラ整備のために武装した軍事組織を派遣する——それも数百人規模で百何十両もの車両とともに——必要がどこにあるのでしょうか。国造りのサポートのためであるのならば、現地の人員を雇用し、現地の力量で以てインフラを整備していくのが本来です。これまでのカンボジアやイラクなどと同様に、「自衛隊派遣ありき」のごまかしがそこに存在します。

南スーダンは、石油を初めとした資源が豊富な地域であり、「アフリカの角」と呼ばれる地域の背後にありアフリカ中央部へ至る要所に位置し、地政学的に、アフリカ全体に睨みを利かすためにアメリカが重視している地域です（スーダンからの南スーダンの独立には、アメリカが大きく関与しました）。

日本政府の狙いも、資源とアメリカのアフリカ戦略への加担、さらに、常任理事国入りを目指すためのアフリカ諸国の票の獲得にこそあるのは明らかです。貴職らは、こうした外交目的のために自衛隊を利用しているのです。

スーダンとの国境付近では、未だに紛争が絶えず、大勢の死傷者が出ています。そうした危険な地域に、「国際貢献」と偽って自衛官を派遣することは断じて許すことができません。

南スーダンへの自衛隊派遣を直ちに中止し、すでに派遣された先遣隊を撤収させることを求めます。

なお、この要請書の宛先に、田中防衛大臣だけでなく金澤事務次官を加えているのは、大臣の政治主導に強い懸念を抱いているからであり、また、それゆえ実質的に防衛政策を実行する事務次官の、これまでの「私利、省利、アメリカ追随」優先の姿勢に対し危惧を抱き、今後の公務員として憲法9条に則った判断と、自衛官の命を最優先する施策を求めるからです。

2012年1月29日

反安保実行委員会

東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2-A 淡路町事務所気付
TEL/FAX 03-3254-5460